

令和元年度第2回下関市子ども・子育て審議会 会議録

日 時	令和元年 8 月 21 日 (水) 14:00 ~ 16:30	場 所	カラトピア 5 階ホール
委 員	横山眞佐子委員、宮川雅美委員、梅田亜紀子委員、梶山正迪委員、山本吉幸委員、 中川浩一委員、今村方子委員、戸田宏純委員、池内賢二委員、若松佐織委員、河内奈穂委員、 大井誠子委員、登根里美委員、吉川英美委員、池田理江委員		
事務局	林部長、三好部次長、 嶋津子育て政策課長、大谷課長補佐、岡崎主査、森脇係長 東矢 幼児保育課長、丹嶋課長補佐、村田係長、齋藤課長補佐、森本主査、 柳生こども家庭支援課長、谷山課長補佐 秋本健康推進課長、金子主査 瀬下学校教育課・生徒指導推進室長、徳見教育研修課長補佐、下村生涯学習課主査		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 下関市子ども・子育て審議会について (資料 1)</li> <li>・ 令和元年度こども政策関連事業について (資料 2)</li> <li>・ “For Kids” プラン 2015</li> <li>・ “For Kids” プラン 2015 実施状況 (平成 30 年度)</li> <li>・ “For Kids” プラン 2020 骨子案</li> </ul>		

事務局 (大谷補佐)	<p>それでは、定刻となりました。本日、ご出席ご予約の 1 名の委員さんが、少々遅れて来られるということですが、始めさせてもらってもよろしいでしょうか。</p> <p>それでは、ただいまから、子ども・子育て審議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。私は子ども・子育て審議会の事務局を務めております、子育て政策課の大谷と申します。このあと会長が決まるまでの間、事務局が進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、下関市子ども・子育て審議会委員委嘱状交付式を始めます。前審議会委員の任期満了に伴いまして、このたび、17 名の方に委員にご就任いただくこととなりました。</p> <p>それでは、副市長から委嘱状をお送りいたします。お手元にお配りしております名簿の順番にお名前を読み上げますので、その場でご起立いただきますようお願いいたします。それでは、副市長、お願いいたします。</p>
	【委嘱状交付】
事務局 (大谷補佐)	<p>本日は、2 名の委員さんがご欠席となっております。それから、1 名の委員さんが少々遅れて来られるということです。委嘱状は、後日、事務局からお渡ししたいと思います。</p> <p>以上で、委嘱状の交付を終了いたします。それでは、ここで副市長よりご挨拶を申し上げます。</p>

<p>副市長</p>	<p>皆様、こんにちは。本来でしたら、前田晋太郎下関市長が参りまして、ご挨拶を申し上げるところでございます。残念ながら、出席ができませんので、代読をさせていただきます。</p> <p>下関市子ども・子育て審議会委嘱状交付式にあたり、一言、ご挨拶を申し上げます。皆様には、平素から教育福祉行政をはじめ、本市行政全般にあたり、ご理解、ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。</p> <p>また、このたびはご多忙のところ、下関市子ども・子育て審議会委員をお引き受けいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、近年、我々を取り巻く社会環境は、少子高齢化の進行、価値観の多様化や地域のつながりの希薄化など、大きく変化しております。本市においては、市民の皆様が夢を語り、希望を叶えることができる、希望の街・下関の実現に向け、取り組みを進めており、とりわけ、若者、子育て世代の定住環境創出については、重点施策の1つとして、位置づけているところでございます。</p> <p>そのような中、国においても、平成27年4月に就学前の質の高い教育・保育の総合的な提供や地域での子ども・子育て支援の充実を図ることを目的として、子ども・子育て支援新制度がスタートいたしました。本市においても、昨年度、実施したニーズ調査をもとに、“For Kids”プラン2020の策定を行うとともに、市独自の子育て支援策として、第2子保育料軽減事業、妊娠・子育てサポートセンターの設置や、現在、建設中の本庁舎東棟1階の子育て支援フロアの整備など、子どもを生み、育てやすい環境づくりに取り組んでいるところでございます。</p> <p>委員の皆様におかれましては、今後2年間、熱心なご審議をいただきますとともに、本市の子ども・子育て支援事業の推進に、ご支援、ご協力を賜りますようお願いを申し上げ、挨拶とさせていただきます。</p> <p>令和元年8月21日 下関市長 前田晋太郎 代読。</p> <p>本日はよろしく願いいたします。</p>
<p>事務局 (大谷補佐)</p>	<p>以上をもちまして、委嘱状交付式を終了いたします。副市長は、このあと、別の公務がございますので、ここで退席させていただきます。</p>
<p>副市長</p>	<p>すみません。よろしく願いいたします。</p>
<p>事務局 (大谷補佐)</p>	<p>それでは改めまして、令和元年度第2回下関市子ども・子育て審議会を始めます。このたび、ご就任いただきました審議会委員の総数は17名で、本日は15名の委員にご出席いただくこととなります。現在、1名の委員さんが来られておりませんので、現状は14名となりますが、過半数の出席がありますので、下関市子ども・子育て審議会条例第6条第3項の規定により、会議が成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは、改めて、委員の皆様のご紹介をさせていただきます。お名前を読み上げますので、恐れ入りますが、その場でご起立いただき、一言ご挨拶をいただければと思います。順番はお手元にお配りしております名簿の順番とさせていただきます。</p>

	<p>だきます。</p>
	<p>【委員紹介】</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>ありがとうございました。それでは、引き続き、事務局の紹介をいたします。</p>
	<p>【事務局紹介】</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>以上で事務局の紹介を終わります。なお、本日は“For Kids”プランに関係の深い保健部健康推進課、教育部学校教育課、教育研修課、生涯学習課の職員も出席しております。</p> <p>それでは、こども未来部部长、林がご挨拶申し上げます。</p>
事務局 (林部長)	<p>皆様、改めまして、こんにちは。こども未来部の部長を務めております林と申します。よろしくお願いいいたします。</p> <p>時間もだいぶ経ちましたので、挨拶は短くと思っておりますが、一言で申し上げれば、子どもの笑顔のために、ざっくばらんに、自由闊達にこれから意見を戦わせていただきたいということでございます。短く言えば、そうなってしまうのですが、もう少しお話をさせていただきたいと思えます。</p> <p>先ほど、任期満了に伴いまして、委嘱状の交付をさせていただきました。委員の方におかれては、初めての方、そして、引き続き委員に就任された方がいらっしゃると思えます。この子ども・子育て審議会というのは、子ども・子育て支援法という法律に定めがあるものでございまして、その法律を受けて、下関市の条例で定めた審議会でございます。</p> <p>審議会が行うことというのは、下関市の子ども・子育て全般について調査、審議していただき、けっこう扱う範囲が広いということになるかと思えます。</p> <p>この令和元年度におきましては、行うことが多くございまして、子ども・子育て支援事業計画、次世代育成支援行動計画、ひとり親等自立支援促進計画の3つの計画を1つにまとめる“For Kids”プラン2020について審議していただくことになろうかと思えます。</p> <p>“For Kids”プラン2020の計画の期間は2020年度から2024年度、令和で言いますと、令和2年度から令和6年度となります。子育てのプレイヤーと言え、従来は家庭、幼稚園、保育園、こども園、学校、そして行政が入っていましたが、昨今におきましては、子育て支援の団体や地元といった、地域の重要性が非常に高まっております。</p> <p>この“For Kids”プラン2020とは、何を計画するのかということですが、それぞれプレイヤーの方々が、誰が何をどのようにどの程度するのかということ、なるべく数字で表現して計画化しようとするものでございます。</p> <p>下関市の今後の主な取組をご紹介させていただきますと、現在、下関市では、子育て支援や子ども貧困対策の観点から、こども食堂を含めた、子どもや多世代の居場所づくりの支援に力を入れていこうと思っております。</p>

	<p>先ほど副市長の挨拶にもございましたが、現在、市役所の新庁舎を建設中でございます。東棟と言いますが、その1階に子育て支援フロアという場所を設けます。こども未来部も現在のところから移動し、そのフロアには、事務室以外にもプレイルーム、多目的室、相談室、授乳室等を設けることになっております。これらの施設を活用いたしまして、子育て家庭の方々に集っていただき、手続きや相談を受け、遊び、そして学べるエリアにしたいと考えております。それほどお金があるわけではございませんので、プレイルーム等、派手なものになるわけではございませんが、ぜひとも多くの子育て家庭が集うような支援フロアにしたいと考えております。委員の皆様の中で、こうしたらよいというご意見等がございましたら、ぜひとも御知恵を拝借したいと思っております。</p> <p>また、最近、お気付きの方もいらっしゃると思いますが、テレビの夜のゴールデンタイムのコマーシャルに、幼児教育の無償化のCMが流れ始めております。この幼児教育の無償化とは、保育の必要性のある児童は幼稚園、保育園、こども園はもとより、認可外の保育施設についても無償化の対象になるというものでございます。正直申し上げまして、現在、その準備にてんてこ舞いでございます。とはいえ、幼児教育の無償化がトレンドでございますので、市として適切に対応してまいりたいと思っております。</p> <p>それから、子どもの貧困対策にも関連があることでございますが、ひとり親家庭への経済的支援を行うとともに、本市は大変厳しい財政状況にありますが、乳幼児医療、子ども医療についても何とか戦いに打ち勝ち、少しでも前進したいと思っております。</p> <p>また、悲しいことですが、時々、全国ニュースで流れます児童虐待でございます。本市では、県の下関児童相談所と役割分担をいたしまして、こども家庭支援拠点というものを設けております。24時間体制で児童虐待等に対応する体制の整備を進めるとともに、大切な専門職の方の育成、そして充実を図っていかねばならないと思っております。</p> <p>最後になりましたが、“For Kids”プラン2020のご審議にあたりましては、委員の皆様の経験、見識、知識等をフル稼働させていただいて、ぜひともざっくばらんに、今日は、距離がありますが、心の距離は短くさせていただいて、自由闊達に意見を出していただきたいと思っておりますし、市役所に遠慮する必要はございません。よろしくお願いいたします。</p> <p>子どもたちの幸せと自立のために、現実に実行可能な計画を策定し、力を合わせて、実行、実現していきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局 (大谷補佐)</p>	<p>それでは、議事に入る前に、会議の運営についてご説明します。審議会の事務局は、下関市子ども・子育て審議会条例第9条に基づき、こども未来部子育て政策課が担当いたします。会議の公開に関しましては、同条例第7条に「会議は公開する。ただし、審議会が必要と認める時は非公開とすることができる。」とありますので、原則、公開とし、傍聴の希望がある場合は、お受けすることとしま</p>

	<p>す。</p> <p>なお、議事録につきましては、会議終了後、事務局にてまとめ、委員の皆様にご確認いただいた後に、公表させていただきます。また、本日の会議は、16時半終了予定となっておりますので、ご協力をお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入ります。まず、会長の選出をいたします。会長、副会長については、下関市子ども・子育て審議会条例第5条に、「審議会に会長、副会長を置く。委員の互選により決める。」とあります。会長選出について、委員の皆様からご推薦はありませんでしょうか。</p>
	<p>【会長・副会長 選出就任】</p>
会長	<p>それでは、今日、終わりが4時半とおっしゃっていますが、いつも延びるので延ばさないように、4時半に終わるようにしたいと思います。その間、皆さんたちが言いたいことができるだけたくさん言っていただけるようにしたいと思います。</p> <p>次の議事に移ってもよろしいでしょうか。事務局のほうから、説明をお願いいたします。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>それでは、まず、本日の資料について説明いたします。本日、配布しております資料は、審議会次第、委員名簿、資料1 下関市子ども・子育て審議会について、これは初めての方もいらっしゃると思いますので、この審議会の位置づけ、目的等をまとめたものと、根拠となる条例も一緒に添付しております。お時間がある時に、目を通しておいてください。資料2 令和元年度子ども政策関連事業について、“For Kids”プラン2015、白黒印刷のものになります。これは、後ほど骨子案を説明する際の比較用資料として用意させていただきました。製本された冊子のほうは、在庫がなくなっていますので、白黒印刷のものをお配りしております。最後に“For Kids”プラン2015実施状況になります。</p> <p>以上となりますが、お手元がない方はいらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。それから、事前配布しております“For Kids”プラン2020骨子案ですが、本日、お持ちでない方がいらっしゃいましたら、お申し出をお願いします。よろしいでしょうか。</p>
岡崎子育て政策課主査	<p>追加があります。子育て政策課の岡崎です。資料2の令和元年度子ども政策関連事業についてですが、昨年度と同様、事業が1から5までありまして、特定教育保育施設事業、これが資料1ですね。資料2 子ども医療費助成事業。資料3 児童相談室運営。資料4 放課後児童クラブ運営事業。資料5 放課後児童クラブ整備事業の5事業について、今年度の実施事業を記載しております。これらの事業は、今後も継続していきますので、また“For Kids”プラン2020につなげていきたいと考えております。以上です。</p>
会長	<p>今までのことで、質問はございますか。それでは、次の骨子案に移ります。</p>
事務局	<p>よろしければ、骨子案の説明に移りたいと思います。骨子案の説明のほう、お</p>



(大谷補佐)	願いいたします。
岡崎子育て政策課主査	【骨子案説明】
会長	長い間、ありがとうございました。 骨子案についての説明がありましたが、皆さん方、全体というよりも、むしろ、ご自分の専門やご自分が心に引っかかった場所について、ご意見、あるいはこのところよくわからなかったという質問がありましたら、何でもお受けしたいと思います。
副会長	14 ページに、「本市においては 31 年 4 月 1 日現在、8 人の待機児童が発生しております。」と書いてありますが、現在でも 8 名の待機児童がいるのでしょうか。もし、いるのであれば、どの地域におられるのでしょうか。
会長	願いいたします。
東矢幼児保育課長	幼児保育課の東矢でございます。それでは、ご質問にお答えします。 ここに書いてありますように、例年の 4 月は待機児童が 0 だったのですが、今年度は残念ながら 8 人発生しています。通常、毎年ですが、育休明けの方、新たに出生されたお子さんが増えてくると、どうしても入れないということで、現在、30 人少しぐらいの待機者が出ております。 地域で言いますと、やはり地域偏在がございまして、一番多いのは勝山地区で、それから長府、川中、山陽、本庁です。だいたい、新下関あたりの勝山地区を中心に、長府などで多く、地域偏在があります。一旦、待機者が出ますと、なかなか受け入れが難しいという状況になっております。 何とか調整はするのですが、やはりハード的なキャパの問題や保育士の確保など、いろいろな問題ございまして、喫緊の課題ですが、非常に難しい状況にございます。
会長	ということは、この 8 人の方は現在も待機されている、プラス、さらに増えている可能性もあるということですか。
東矢幼児保育課長	8 人の方が入れたかどうかは、今ここではわからないのですが、確実に少しずつ増えている状況でございます。
会長	それはどのような対策を今後取ろうとお考えですか。
東矢幼児保育課長	何とかと思うのですが、やはり先ほど言いましたように、地域偏在がございまして、下関市は地域が広いため、定員にいかない部分もあれば、やはり、真ん中あたりは少々厳しいという状況がありまして、何とか対策を考えなければいけないということで、今、一生懸命頭をひねっているところでございます。
委員	待機児童の年齢は、何歳ぐらいですか。
東矢幼児保育課長	一番多いのは 1 歳です。育休明けなどにより、基本的には 3 歳未満の子が占めている状態です。

会長	他にご意見はございますか。
委員	<p>情報の周知をされていると何回もおっしゃいましたが、たとえば、3歳から5歳までの幼児さんのおよそ97～98%が、保育園や幼稚園には就園されているでしょう。それならば、そのようなところを上手に使って、情報の周知ができると思います。あまりそういうことをされていないように見えるので、もう少しそういうところを使うということ、これに盛り込んでもいいのではないかと思います。</p> <p>2点目は、これも我々の立場から申し上げますと、今度、3歳から5歳が無償化となりますよね。そうすると、お母様方、お父様方のニーズも変わるし、考え方も変わります。変わると言っても悪いほうではなく、良いほうに変わるので、無償化についても入れたらどうかと思います。そうしたら、少しでも明るいプランができるのではないかと思います。</p> <p>今度は3点目ですが、育てやすい、子育てをしやすい下関と言え、やはり幼児さんは預かり保育、小学生のお子さんは放課後の児童クラブの充実です。だから、事務的な手続き等を短縮化、簡略化して、ご父兄のニーズにできたら素早く対応できると思います。この話については、私はこの4年間、ずっとお願いしているのですが、あまり変わっていません。だから、もうそろそろ変わってもいいのではないかと思います。お母さん、お父さんの顔が寂しくなると、子どものお顔も寂しくなりますので、そのへんを考えて、この“For Kids”プラン2020を少し明るい方向に持っていけるとよいと思います。以上です。</p>
東矢幼児保育課長	<p>貴重なご意見、ありがとうございます。まず、周知の方法ですが、先生もご承知のように、定期的に園長会等を開いておりますので、そちらのほうで積極的にはご案内したいと考えております。</p> <p>また、無償化につきましては、先般から園長会等を通じて、一応、在園児の方にはチラシを配ったり、現在、ホームページも立ち上げておりますし、先ほど、部長がおっしゃいましたように、テレビでもかなり無償化については周知しております。</p>
委員	<p>だから、この中にもそのような要素をもう少し入れてほしいです。無償化という文言が、1行くらい出てきましたが、あれをもう3行か4行くらい入れると、ご父兄はものすごくうれしくてありがたいと思います。</p>
東矢幼児保育課長	<p>それは少し検討させていただきたいと思います。ありがとうございました。</p>
委員	<p>それから、児童クラブについてはいかがでしょうか。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>子育て政策課の嶋津です。児童クラブに関しまして、まず、手続きの簡素化という話がありました。児童クラブの場合、通っている小学校に児童クラブがない場合は選択できるのですが、基本的には通っている小学校の児童クラブに前月の15日に申し込みを出してもらうこととなります。家庭で子どもを保育すること</p>

	<p>ができない家庭が利用し、就労の証明くらいの申請になります。</p> <p>今年度、様式等の改正をさせていただきましたので、ある程度、簡素化は少しずつですが、図ってきているところではあります。</p>
委員	<p>ありがとうございます。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>児童クラブに関しましては、やはり待機児童が発生しております。今年度、5月締め切り現在では、待機児童が59名発生しています。ですが、新たに施設もどんどん増やしており、たとえば、今年度は、熊野小学校内に3つ目の教室をグラウンドに建てて、4月1日から共用を開始しております。これによって、ある程度の定員が増えて、熊野は待機児童が解消されました。</p> <p>最近の傾向として、児童数は1万2千人くらいいるのですが、今年の5月1日時点で2,349名でして、児童数は毎年100名前後減少しています。それに対して、児童クラブの入会者数は、毎年100名ずつ程度増えています。だから、児童数が減るということと、児童クラブに入会してくる子どもが反比例の関係にあって、逆に言えば、ものすごい勢いで、児童クラブの入会希望者、あるいは希望している子どもが増えているのに対し、施設の整備がなかなか追いついていないというのが現状です。</p> <p>今、児童クラブが目指している方向性としては、そのようなハード面の整備も必要なのですが、ここで子どもを預かるわけですから、安心・安全に保育していくというソフト面の充実も図っていかねばいけないということで考えています。しかしながら、なかなかハード面とソフト面のバランスを考えて、両方の充実を図るよう進めていっても、それは正直、待機児童が発生しているという分では、まだ追いついていない現状です。そのへんについても、次のこの“For Kids”2020の中で盛り込んでいきたいと考えております。</p>
委員	<p>余談ですが、実は私の園の下に児童クラブの保育室があります。職員の皆さんは、本当に頑張っていらっしゃいます。大したものだなあと、我々も思っています。そのような積み重ねが、下関は子育てがしやすいということにつながると思います。一番大事なところなので、頑張ってください。よろしくお願いします。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>ありがとうございます。</p>
委員	<p>まとめていただき、ありがとうございました。10年前から、中核都市、そして政令都市の中で、下関市は若いお母さん方にとって、子育てしやすい街ベスト10の中にずっと入り続けてきたということもあり、やはり子育てしやすいのだろうなどは正直思います。</p> <p>けれども、先ほどの説明を聞く中で、たとえば7ページの合計特殊出生率は、やはり県内の平均よりも下関は低い数字をたどっています。</p> <p>また、12ページのこども園、保育園、幼稚園の入園児童数の状況についても、300人程度が減ってきていて、それほど減っていないというお話だったので</p>



	<p>が、現実には300というところから、小さな小学校が1つなくなるペースで、どんどん減っているわけです。せっかく“For Kids”プラン2020年をつくるのであれば、本当にこの少子化を含めて、子育てをしやすい街だとお母さんが自慢して、もう1人頑張ってみようかなとか、あるいは本当に地域の中で子どもを生み育てやすいよねと、異口同音にみんなが語っていけるようなプランを、ぜひつくっていただきたいと思っています。</p> <p>同時にこのプランは、2020年、来年度からですね、この計画は、いつ頃にまとめて、どのような形でリリースされようかとされているのか、こういったところもお話を聞かせていただければと思います。</p>
嶋津子育て政策課長	最後の部分をもう1回お願いします。
委員	この審議会にかけるにあたって、どのあたりで、計画を形づくられようかとされているのでしょうか。
三好部次長	<p>この計画につきましては、最初に説明がありましたように、2020年、来年ということで、今年度末には計画を策定し、最終的には、市長がこれを策定するわけなのですが、審議会の委員の皆様には、その最終段階までご意見を賜りながら、この計画の最終的な原案を策定する作業をお願いしたいと思います。</p> <p>それと同時に、策定後は議会等にて報告することを予定しており、順調にいけば、一般的なリリースは、年度末に市が開示するということとなりますが、年度内の策定ということを考えております。以上です。</p>
委員	ぜひ、夢のある“For Kids”プラン2020ができるようによろしくお願ひしたいと思います。
副会長	19ページのショートステイ事業とトワイライトステイ事業について、これを知らないというパーセンテージがとても高いですね。この周知の方法を考えていただければと思います。早急によろしくお願ひいたします。
会長	19ページの下の方にある、ショートステイとトワイライト事業、2つの事業の周知について、知らないという人がとても多いですね。
嶋津子育て政策課長	<p>ショートステイ、トワイライトステイにつきましては、なかべ学院さんが行っているのですが、確かにおっしゃる通りです。事業をここでやっていることを知らないということは、これは我々もよく聞きます。</p> <p>今までのやり方は、たとえば、『あなたの子育てを支援します』という、このような冊子や、ここ最近で言えば、子育てアプリのほうに、こういった情報を載せていますと我々のほうから周知はしていました。ただ、結果として、それで十分周知されていないということは認識しています。それが19ページの結果に表れているのだらうと思います。</p> <p>今後、この計画の中にも盛り込まれていかなければいけないと思いますし、やはり、ある程度周知をしていくためには、どのように広報、周知を図るかという</p>

	<p>ことも考えていかなければいけません。来年の2月に新たな東棟の新庁舎が完成しますので、1階を子育て支援フロアと位置づけ、そこにいろいろな情報を集約して、いろいろな人が集う形とし、市報なども大いに活用して、より積極的に広報をPRしていきたいと考えております。</p>
委員	<p>今のショートステイについて、51%が知らないとおっしゃっていますが、これは「知らない」だけではないですよ。なかべ学院と言ったら、彦島の一番奥です。たとえば、小月の方がそこまで連れて行きますか。行くのに往復で1時間半ぐらいかかります。</p> <p>だから、今おっしゃったように、庁舎の中にそのような場をつくるというのは、とてもいいことです。我々は園児さんのお兄ちゃん、お姉ちゃんをショートステイ的にお預かりすることがたまにあるのですが、ご父兄は大変助かっているはずですよ。なかべ学院を確保しているとおっしゃいますが、もう少し真ん中の地域にある、行きやすい場所や距離を考えていただくと、若いお父さん、お母さんに大好評になると思います。だから頑張ってください。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>ありがとうございます。新たな施設が必要かどうかは、これから第5章以降の計画部分の話になってくると思います。今、委員がおっしゃったように、当然、ニーズがあるかどうか調査を十分した上で、それから、私どもとしましては、それに対しての費用がどの程度かかるのかということも把握していきながら、市民にとってより利便性が高まるものであれば、検討の余地もあると考えております。</p>
副会長	<p>前回は申し上げましたが、ショートステイについては、市役所のこども課に行って申し込みますが、チェックリストの項目がとても多いと聞きます。それをクリアしなければ入れないから、結局、ニーズはあるけれど入れないという現状のようです。そこを少し緩和していただければと思います。</p>
嶋津子育て政策課長	<p>こちら前回話をさせていただいた部分で、利用の条件に制約があるので、それに対する書類が多くなっており、それがまた、利用者の利用を妨げている部分になっていると、認識は確かに持っています。</p> <p>ある程度、柔軟性を持てるのであれば改善していきたいと考えているのですが、国の補助金を活用しながら行っている事業なので、それはすみません、もう少し、国や県と協議をさせていただければと思っています。</p>
会長	<p>前向きに、一つ一つ、検討をお願いします。</p>
委員	<p>全体の解説をしていただいて、前回のプランニングに比べると、より下関の子育てに関わる実情を把握されており、とてもよく見えるようになった計画の体系だと思えます。</p> <p>特に、子どもはこれ以上増えないだろう、もう出生率も上がらないという時代に、一人ひとりの子どもへの丁寧な対応が保障され、しかも、支援を必要とする子ども一人ひとりを保障するということは、とても大きいことだと思っています。</p>

す。そのへんについて、先生方にもこれで十分かどうか後から意見をお聞きしたいと思います。

けれども、子どもたち一人ひとりを死に追いやらないという最初の大前提があって、その次に、子育て家庭をどう支援するかという問題が出てくると思います。女性の育児休業を取るパーセンテージと、男性の育児休業を取るパーセンテージについて、全国平均では男性が育児休業を取るのは7%ですが、下関のどこかの会社は13%の方が取っていて、賞をもらったという記事を見ました。今はもう、お父さんもお母さんも子育てをする時代なのだと思います。「育児に参加する」という消極的な言葉ではなく、「子育ては2人です」という大原則で進めていかなければ、パーセンテージが上がらないだろうと思います。

男性の育児に関わる啓発と言いますか、あるいは実際の行動体系をどのようにするかという意味での周知はされていると、何回も出てきています。具体的には、事業体にはどのような指導をするのか、家庭にはどのような指導をしていくかというものが、たとえば幼稚園や保育園の中でも、親子関係、夫婦関係も見えておられると思うので、このような親が入ってきたから、このような助言を入れたらどうだといった、そういうソフトはないでしょうか。現場の先生たちが3人もおられるので、そういうご意見も聞こえてくると、家族のあり方という問題の中身がより充実すると思います。

それからもう1つは、今はほとんどが核家族ですから、やはり地域という共同体が支えないとだめだと思います。子育て親子を地域に送り出す事業はたくさんあり、私のひろばでもとても多くあります。しかし、そうではなくて、やはり地域が最近の子育て親子を学ぶという、逆輸入のような発想に視点を変えていかなければなかなか変わらないと思います。

お祭りに一緒に行ったけれども、あのおじいちゃんがうるさいからもう行かないという親がいる一方、せっかくおじいちゃんたちは、丁寧に水鉄砲を作ってくれたりするのですが、最近の子育て親子とコミュニケーションをどう取ったらいいかわからないようで、結局、愚痴の言い合いになって終わることがあるようです。

そのような実情は、それぞれの地区で持っているのではないかと思います。おそらくアンケートには挙がってきていないことなのかもしれませんが、下関市の20年後を見ていくために、地域の子育て世代の学習会のような教育的、前向きなワークショップが必要だと思います。

今、中山間地域も問題となっており、それぞれの地域の親子の関係についてなど、ワークショップなどを通して、もう少し先を見越した育て方をちゃんと構想してみる必要があるのではないかと思います。そういう意味では、本当に基本目標のセクションは上手に並んだと思います。その内容をできるだけ具体的に施策として展開していくためには、どのようなものが入れるとよいかというのは、現場の方もおられるので、ご意見を聞けたらと思うのですが、いかがでしょうか。

<p>会長</p>	<p>本当にその通りのご意見だと思います。ここには幅広い方々が集まって来てくださっているので、子育てや出産だけではなく、女性の働き方、企業、あるいは地域の支え方など、全てを包括した考え方を理念として持たなければいけません。一部分だけ取り出して、子育てというところを強調すると、子育てイコール女性みたいになりがちですよ。</p> <p>それから、そこには、学校、保育園、幼稚園、教育だけではなくて、やはり働く場所である企業も、この中にあるということを見ていかなければ、部分的には、このようにつくりましたと言われますが、その根底を見ることが大事です。</p> <p>今、先生がおっしゃったように、今までは80歳を過ぎたおじいちゃん、おばあちゃんたちというのは、子どもがかわいいねと見ていただけであったり、あるいは自分たちが今までやってきたことを子どもに教えてあげていたのが、逆に、これからはおじいちゃん、おばあちゃんたちが子育てをしている方たちから学ぶという場所も必要なのかもしれません。どちらが支えているかというのを、逆からも見ることはできるのではないかととても思いました。</p> <p>また、委員さんのように、このような会議は初めてという方は、書いてあることがちっともよくわからないですよ。私も最初にこのような会議に来た時に、何が書いてあるのかさっぱりわかりませんでした。説明されても全然わかりませんでした。でも、委員さんのように今、子育てをしている方が、これが一番困っているということをおっしゃることが、私は大事だと思います。今、言ってみたらどうですか。意見を言うのが、この場所の大事なことです。</p>
<p>委員</p>	<p>ショートステイ、トワイライトステイは、子育てを13年間していて、知りませんでした。正直、なかべ学院さんの存在も今、初めて知りました。そんなに大変なことがないまま、ここまで子どもが育ったことに、ありがたいと思う気持ち半分と、これから若いお母さんたちが子育てして行く上で、いろいろな事業のショートステイやトワイライトステイなど、私が知らなかったことをうまく活用して、子育てができる街になったらいいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございました。そちらの方で、何かご意見がございますか。</p>
<p>嶋津子育て政策課長</p>	<p>今、おっしゃっていただいたような、市ではこのような施策を行っているという情報提供を行ってはいます。ただ、それが市民にちゃんと情報として、うまく届いていないのだろうと、話を聞きながら感じているところです。</p> <p>そのへんを、今ある事業や施策をうまく活用していきつつ、新たに何をやっていくのか、あるいはどのように変化していくのかというのが、この“For Kids”になっていくのだろうと思います。まず、新しい“For Kids”云々の前に、我々としては、そういったことを市民に対し、もっと情報として伝わるようなことを考えていかなければいけません。それは、新しい“For Kids”をつくるということとは別のこととして、もっと我々が努力しないといけない部分なのではないかと、話を聞いて感じました。</p>

<p>会長</p>	<p>どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>いろいろなところを見ると、情報がうまく伝わっていないという感想が出ていましたし、市報に載せていても、実際に困った時に、その市報が目の前にあるわけではありません。また、もう中学生、高校生となり、子どもが大きくなって、たとえば、なかべのショートステイを利用しようという状況にない人へ情報を提供するよりも、せっかく市がこれだけの施策をしているのだから、利用する可能性のある子どもがいる、たとえば幼稚園、保育園、何か月健診、あるいは何年目かの健診などの場で、子どもがいる人たちに情報を渡すという方法はできないのでしょうか。下関市民みんなが知るということも大事だと思うのですが、今、子どもがいる親御さんに周知することが必要です。</p> <p>たとえば、保育園や幼稚園に、いつでもそのような市のパンフレットが置いてあって、保護者会の時にパンフレットを渡し、このようなことがありますよ、簡単なことでも見てくださいね、と配ると良いと思います。そのような方法を市が直接やるのはなかなか難しいかもしれないので、園にお願いをして、パンフレットだけはたくさん配っておくといったことが少しでもできれば、対象となる方が目にすることが増えるのではないかと思います。すでにされているのかもしれませんが。</p> <p>それから、実際にそういうお子さんがいらっしゃる時には、幼稚園、保育園、児童委員の方から困っている方に、このようなパンフレットがあるということを伝えてもらってもいいのではないかと思います。情報不足でうまく伝わっていないという話ですので、このように思いました。</p> <p>それから、私は地域の代表みたいなものとして、ここへ来ているのですが、先ほどの話は非常に耳が痛いところもあります。実際に、自治会もやらないといけないと思いつつ、どのようにしたら、子どもと年配の人と、子育ての世代がうまく地域でやっていけるのかということ、大変悩んでいるところです。どちらかと言うと、だんだんと高齢化の波がやってきていますので、高齢化が進んだ地域は、高齢者の方たちをどうするかということに重点がいつている部分もあります。</p> <p>しかしながら、お年寄り子どもたちが交流する場を持つと取り組んでいる地域もいくつか出てきてはいるように聞いています。うちの自治会も、社協からいろいろなアドバイスもあって、おじいちゃん、おばあちゃんではないのですが、子育てが終わったくらいの世代と、子育て世代のお母さんたちの地域交流会というのを持つようにしたところ、けっこうそこで子育てについてのノウハウが次に伝わったという話を聞いています。</p> <p>うちはふれあい交流事業として、全体交流サロンという形で、お年寄りのサロン、全世代サロンの2つを行っています。お年寄りを中心にしたいきいきサロンだけではなく、全世代サロンでは若い世代を取り込んでおり、子育てについての</p>



	<p>悩みがたくさん出ると聞いているので、地域としては、このような事業もこれから考えていかなければいけないということを伝えたいと思っています。</p>
会長	<p>ありがとうございました。この会にしては、珍しく地域の話も出てきました。</p>
委員	<p>もう1つ、地域の人口増とともに外国人の移住者が増えてきているのではないかと思うのですが、これは就学前の話ではなくて、就学後の話と聞きました。</p> <p>はっきりとはわからないのですが、下関市はベトナムからの移住者が多いという情報を聞きました。小学校では、外国人児童のために、学校活動を周知するために配布するお知らせは日本語しか書いておらず、常に支援する人が必要で、それは地域のボランティアにあたる人が行うという話を聞きました。</p> <p>学校教育の中にも、グローバル時代ですから、今からますます外国人材が増えてくると思いますし、幼稚園教育の中でも出てくると思います。そういった時に、やはりグローバルな教育や保育の流れも、今からの日本、特に下関は海峡の街ですから、そのような場面もたくさんあると思います。そちらのほうの施策も、外国人の子どもについても何点が出ていましたが、より進んで、現在どのようなトラブルがあるのか、就園前、就学前、就学後でそれぞれどのように子どもたちが困っているのか、あるいは生計は母親もたてているのかいないのか、そういう視点も目を注いでおくと、新しい市づくりの何かに関与していくような気がするので、情報提供しておきます。</p>
会長	<p>そうですね。これから本当に、海外からの方も増えてくる時代があつという間に来ると思います。</p> <p>委員さん、いかがですか。</p>
事務局 (大谷補佐)	<p>すみません。事務局のほうからです。予定の時間になっております。皆様方、お時間のご都合がよろしければ、15分程度延長してもよろしいですか。皆様によろしいかどうか、会長のほうからご確認をお願いします。</p>
会長	<p>時間が難しい方はどうぞ。大丈夫ですか。</p>
委員	<p>すみません。子どもの習い事の送迎があります。</p>
会長	<p>それでは、あと5分ということでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>先ほど先生からご指摘があったように、支援の必要な子どもたちへのプランを、この中に盛り込んであることを大変ありがたいと思っています。平成28年にもあったように、今、幼児の5歳児発達相談推進事業というものが始まっており、医療現場だけでなく、幼稚園、保育所、こども園の先生方も、いろいろな勉強会や研修会を通して、発達障害の子どもたちに対する理解や支援を大変よく勉強されていて、とても底上げができてきていると思います。</p> <p>その反面、5歳児で支援が必要だと言われたとしても、結局、発見されても受皿が少ないというのが現状です。早期発見という意味でも、早い時期に発達が気になると言われた子どもたちがたくさん挙がってきてはいるのですが、幼児や小</p>

	<p>学校の通級指導教室、総合支援学校で行っている、支援を必要とする子どもたちが通うような教室も、もう今の時点で受皿がいっぱいで、どこで受ければいいのかと言われていています。</p> <p>計画の体系では、支援を必要とする子どもたちの「障害がある子どもへの適切な支援の充実」のところに、障害の早期発見と療育と掲げているのですが、どちらかと言うと、発見や早期については割と今、下関市内では充実してきているので、支援を受ける場や、量や質の確保のほうを掲げていただくよいのではないかと思います。</p> <p>今、療育の現場だけが頑張っているのではなく、子どもたちが在籍している幼稚園、保育園、こども園の先生方も、とても支援の方法や技術を学ばれていらっしゃると思います。療育センターのようなところだけでなく、下関市全体で障害のある子どもたちを支援していくという方向に行くといいなと思っています。</p>
<p>会長</p>	<p>ありがとうございます。他の方はいかがですか。放課後児童クラブなどは、大丈夫ですか。何かご意見はありますか。</p> <p>それでは、次の時までには、心づもりをお願いします。今度、新しく新庁舎の1階にそういう場所ができるとさっきおっしゃいましたが、やはり、そこを拠点にして、様々な情報をどのようにして流すかという話でしたが、紙でもらってもなくす、冊子があっても見ない。でも、本当に困ったこの瞬間に、あそこへ行けばいい、あそこの人に相談すればいい。これは結局、人のつながりなのではないかと思います。</p> <p>そういう場所が1カ所でも、たとえば、市役所の中にあつたとしたら、そこからつなげるということはいくらでもできると思います。ですから、そこが行きやすい場所であるかどうか、そこに行った時に、難しいおばさんが座っていて「何?」と言われるのと、「なんですか?」と言ってくださるのでは大違いだと思います。そのようなものをつくる際に一番大事なことは、誰一人、来た時に嫌な気持ちにならない場所であり、そうならなくてはお金の無駄遣いだと思います。</p> <p>というわけで、今日は全員に発言を求めるところだったのですが、次回にいたします。皆さん、これをよく読んで、骨子案が出た時にはぜひご意見を願いたいと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>最後に一言よろしいですか。計画の基本理念はどれがよいかというと、今の会長の気持ちを代弁すれば、「ともにつながりあい」がよいと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>2つ目ですか。</p>
<p>委員</p>	<p>別案1です。</p>
<p>会長</p>	<p>ともにつながり。どうですか。よいですね。</p>
<p>嶋津子育て政策課長</p>	<p>別案1と別案2のどちらがいいか、ここではっきり決めるのではなく、審議会として、どちらのほうがいいかという方向だけ、今、ここでなんとなくでよいの</p>

	<p>で示してもらいたいと思います。別案1のほうがいいかもしれないねくらいの感覚で意見をいただければ、次回にそれを生かしていこうと思います。</p>
<p>会長</p>	<p>皆さんたち、別案1の「ともしつながり支え合い、ともに学び成長し、下関の子どもの幸せと自立を支援する」、別案2の「地域の輝きと支え合いを子どもの笑顔と未来につなげる街 下関」。</p> <p>さあ、別案1がいいという人は手を挙げてみてください。多いですね。</p> <p>一応、別案1ということで、多数の人がこれがいいと言っています。</p>
<p>嶋津子育て政策課長</p>	<p>それでは、審議会としては、別案1のほうがいいのではないかというご意見をいただいたということで、次回につなげていきます。</p>
<p>会長</p>	<p>よろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局 (大谷補佐)</p>	<p>それでは、次回、“For Kids”プラン2020の素案をお示しする予定としております。それに向けて、お気づきの点等ございましたら、事務局のほうにまた、お知らせいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。</p> <p>次回、審議会は10月中の開催を予定しております。時期が近づきましたら、またご案内いたしますのでよろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、今日は少し時間が過ぎました。申し訳ございません。以上をもって、本日の子ども・子育て審議会、終わらせていただきます。皆さん、ありがとうございました。</p>

議事録署名

委員 \_\_\_\_\_ (印)

委員 \_\_\_\_\_ (印)